

Les solidarités à l'épreuve de la Terre :

Vers des territoires de résilience ?

地球により試練にさらされる連帯：

レジリエンスの地域へ？

2020年4月24～25日

601会議室

日仏会館(UMIFRE 19 MEAE-CNRS)

東京都渋谷区恵比寿3丁目9-25

〒150-0013

2019年～2020年度 MISHA 研究プロジェクト「農への回帰、そして農の回帰：危機に対する食と農をめぐる思想と社会的イノベーションの循環に関する日欧比較研究」および日仏会館研究セミナー「3.11 災害後の日本における危機、断絶、そして新たな動態」による共同研究セミナー

セミナーの紹介と目的

当セミナーは日仏間で開催される複数の学会会合の一環で行われる。これらの会合は、大地(フランス語で«terre テール»=土、地球、農地など複数の意味をもつ)への回帰ということ、食の恵みをもたらす大地、生の空間、または帰属の地域といった多面的な意味を帯びる大地 *terre* との関係として再考し、再構築する様々な試みとして問うことを目的とする。

第一回セミナー(東京日仏会館、2019年9月2日)では自然に関する歴史性と思想性、第二回セミナー(ストラスブール、アルザス人文社会科学会館、2019年11月28日)では産消連携(提携、AMAP)と地域農業の問題に取り組む市民団体の事例、第三回セミナー(ストラスブール、アルザス人文社会科学会館、2020年2月4日)では、土に対する「ケア」実践(アグロエコロジー、バイオ・ダイナミック農法)の進歩が著しいワイン業界の動向を受けて、ぶどう及びワイン生産、特に「自然」ワインという特殊な活動分野を扱った。

このように、我々が「大地への回帰(または帰農)」と呼ぶものは都市からの農村移住や就農現象に留まらない。我々はそこに「着陸」(ラトゥール、2017)のための努力を反映するエコ

ロジカルな関与 engagement の形態、つまり地球の有限性を意識化し、その意識を政治レベルかつ日常生活レベルにおいて反映する行為を含めている。

今回のセミナーでは、様々な「大地」への注力の形と現れに関して、特にそれらが、我々が「大地 terre の回帰」として考える生態学的、技術的、社会経済的な危機にさらされる時(または人間の活動が地球の限界や反動に遭う状況)との関連において分析を深めていく。

大地または地球そのものが我々の元から離れようとしている時、または無くなろうとしている時、帰農または大地への回帰ということ、どう考えればいいだろうか?(Charbonnier, 2017)そして、時に避難的手段としても捉えられる帰農が、干ばつ、洪水、火災、流亡のみならず社会的な紛争にも直面する場合はどうだろうか？

ここで「危機」として考える試練とは、不慮の、コントロールの難しい現象で、個人や集団や地域に影響を与える変容でもある。そして、その帰結は空間的かつ時間的に限定された現象でありかつ、長期にわたり影響を及ぼすものである。

これらの出来事、すなわち危機や大災害は社会集団、実践そして環境間の特殊な結合形態を映し出すものとして扱う必要がある。そこで問題となるのは以下のような様々な意味をもちうる大地とのつながりである：

- 生活(生命)空間として、つまりそこに残り、または離れ、または再建し、再構築し、時に保守することのできる場所
- 生物の空間として、他の生物存在と共有され、その運命や絶滅の危機が運動の契機ともなる場所
- テロワール(風土)、かつ/または食の恵みをもたらす大地として、生産、流通、共有、食料への価値付与をめくり形成される人間的関係を越え、また市場的關係以前または周辺に位置する場所

このセミナーでは、ヨーロッパと日本(またはその他の地域)における、過去、現在、または予期される危機に応答して形成されるイニシアチブ、経験、集団的実験を検討し、それらがどのように環境、生命そして他者へ働きかけていくのかを検討する。

危機または災害は、どのように互酬的で連帯的な紐帯に試練を課し、関係性の条件を変容させ、時に断絶にまで導くのか？または逆に、新たな形のパートナーシップ、協力、共有を生むのだろうか？これらの危機はどのように資本主義的権力を妨害し、時に回復力(レジリエンス)を生じさせるのか？複数性、特に「オルタナティブ」な試みにとって、どのような可能性が残されているのだろうか？

今回の研究セミナーは、特に危機や大災害が集団、紐帯、ネットワーク、愛着を試練にさらす様態としての解体、再定義、再編成のあり方などに焦点をあてる。これらの「試練」はどの程度において創造、再編、レジリエンスの契機となるのだろうか？それらの限界はどこにあるのだろうか？

参加方法について

- ・ 本セミナーは、様々なディシプリン(哲学、歴史、人類学、社会学、経済学など)の正規研究者および若手研究者(博士課程、PD など)に向けて開かれている。
- ・ 発表と議論は主にフランス語で行われるが、英語または日本語の発表も可とする。日本語の発表の場合は、逐次通訳を行う予定である。日本語またはフランス語の議論についても必要に応じて通訳を行う。
- ・ 発表要旨(400-600 語)は、フランス語または英語にて執筆し、以下の連絡先に送付する。

発表要旨送付先：laugran@unistra.fr / muramatsu@unistra.fr

- ・ 発表要旨提出締め切り：2020年3月27日(金)

連絡先

グランション・ロランス、ストラスブール大学(Dyname UMR7367)、准教授
laugran@unistra.fr

村松研二郎、ストラスブール大学(GEO EA 1340)、常勤講師
muramatsu@unistra.fr

ニコラ・ボーメール、名古屋大学、准教授
baumert@ilas.nagoya-u.ac.jp